

(2) 農地がへっている

昭和35年（1960年）に607万ヘクタールあった農地が、住宅地とか工場用地とか道路とかに転用（ちがった目的に使うこと）されて、平成7年（1995年）には、504万ヘクタールにへってしまいました。農地（田んぼ）がへるとどうなるのでしょうか。

日本は、米以外のほとんどの穀物（主食とする作物。米、麦、あわ、とうもろこし、豆など）を、外国からの輸入にたよっています。

二〇〇〇年に世界的な食糧危機が発生、穀物の輸入が途絶状態になったら、日本では年間五百万トンのコメが不足する。農林中金総合研究所（東京）は二十三日までに、食料確保の必要性を強調した「米穀依存の食料安全保障の現実性」と題するレポートをまとめた。

レポートは、発展途上の人口増や環境変化などで、二〇〇〇年以降に、海外からの穀物輸入がほぼストップしたと想定、現在穀物の七割を輸入する日本が、穀物消費をほぼ国内の

2000年にコメ不足？

年間500万トン 農中総研
リポート

コメだけに頼った場合の不
足量を試算した。
計算という。

それによると、二〇〇〇
年のコメの予測生産力は水
田面積の減少などもあり約
千三百万トンのに対し「国
民が豊かな食生活ができる
ようになった時期」に当た
る一九六二（昭和三十七）
年水準のコメを消費すると
約千八百万トンが必要で、差
し引き約五百万トンが不足
する。

同研究所は「日本は農地
がもともと少ないため、国
内生産に依存した食料安全
保障を考えるには、農地の
年水準では約二百四十万
トン、国民が飢餓に直面し
ていた」時期の四十六年水

1997年8月 福島民報

左の新聞によると、平成12年（2000年）以降に、人口の増加、気候の変化などから食糧（穀物のこと）が世界中で不足して、もし、わが国へ外国からの輸入がストップしてしまったら、今はあまっている米も足りなくなってしまうということです。

日本は大部分が山地で、農地がもともと少ない国です。輸入がストップしても現在のように安心して生活していくためには、農地を確保し、残していくことが大切です。

(3) 輸入農産物がふえ、日本では作られない作物がふえている

農家の人は、とれた農作物を消費者に売ったお金で生活をしています。なるべく高く買ってもらえれば、それだけ豊かになります。